

2018. 3. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年4月3日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《3月のおはなし会で使った本》

『ここよここよ』 かんざわとしこ/ぶん やぶうちまさゆき/え 福音館書店 2003

『わにわにのおふろ』（大型絵本） 小風さち/ぶん 山口マオ/え 福音館書店 2009

『のはらにね』（紙芝居） ひろかわさえこ/脚本・絵 童心社 2013

『はたらくくるま』 バイロン・バートン/さく ポプラ社 2018

★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：平成30年4月21日（土）11：00～11：40 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：エプロンシアター、パネルシアターなどによるおはなし会 ○対象：幼児（3歳児から）

○定員：30名（要申込み・先着順） ○参加費：無料

★「でんきであそぼ！」

○日時：平成30年4月28日（土）13：30～15：30 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室

○内容：モーターやワイヤレス給電などの実験や工作 ○対象：小学生（3年生以下は保護者同伴）

※受付は終了しました

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『スプーンちゃん』 小西英子/作 福音館書店 2018.1 ¥800

「スプーンちゃん、プリン食べるの、プリリンリン」にっこり笑顔のスプーンちゃんが、カラメルたっぷりの美味しそうなプリンをひとすくい。鮮やかな緑色のグリンピースが「ころころ」とこぼれたら、スプーンちゃんは困り顔。表情豊かなスプーンちゃんの様子と、リズムカルな言葉が楽しい食べ物絵本。「こどものとも0.1.2」207号のハードカバー。

<絵本-3, 4歳から>

『北極サーカス』 庄野ナホコ/作 講談社 2018.1 ¥1500

クジラが引っ張る氷にのって、北極サーカスがやってきた。団員は、ホッキョクオオカミやホッキョクグマなどの白い毛皮の動物たち。アイススケートや火の輪くぐり、空中ブランコと次から次へと繰り出す技は、不思議で愉快で、なぜだか少しかなしくて…。青と白を中心とした抑えた色使いで、夢見るようなサーカスの時間を、美しく幻想的に描く。

『みんなでののしむ もりのえほん』 安野光雅/作 福音館書店 2018.1 ¥3500

ロングセラーの隠し絵の絵本『もりのえほん』を、38×28cmの大判にして刊行。森の木々の幹や枝の間に、繁った葉の中に、草むらに、ゾウやリス、ダチョウなど130あまりの動物が隠れている。指でたどりながら迷路遊びが楽しめる『みんなでののしむ まよいみち』（34×30cm）も同時刊行。幼稚園や学校等にあれば、みんなで絵本をぐるりと囲んで楽しめる大判サイズ。

<絵本-5, 6歳から>

『きつねのおはなはん』 中川正文/さく 二俣英五郎/え 福音館書店 2018.2 ¥900

お寺にいるキツネのおはなはんは、ハイカラなべっぴんさんに化けて、村を歩き回るのが得意。マンケはんのおっさんは、娘のおたみをハイカラにしてくれと、お寺に頼みこいく。おはなはんは、おたみに英語などを教えるが、寒い森の中で歩き方の練習をしたために、おたみは入院することに…。きつねと女の子のほのぼのとした交流を描く。初出は「こどものとも」1978年3月号。

<絵本-小学校低学年から>

『ネルソンせんせいのがきえちゃった!』 ハリー・アラード/文 ジェイムズ・マーシャル/絵 もりうちすみこ/訳 朔北社 2017.12 ¥1500

2年1組の子どもたちは、ネルソン先生がやさしいのに甘えて、やりたい放題。先生の言うことは聞かず、勉強もしない。ある日、ネルソン先生は姿を消し、代わりに恐ろしくて厳しいスワンプ先生がやってきた。スワンプ先生に耐えかねて、ネルソン先生が恋しくなった子どもたちは先生を探しに行くが…。米国で1977年刊行されたロングセラー絵本の邦訳。

『えほん・椋鳩十 大造じいさんとがん』 椋鳩十/作 あべ弘士/絵 理論社 2017.12 ¥1500

がんの群れの頭領「残雪」の賢さから、大造じいさんはがん狩りがうまいくなくなる。ある日仲間をはやぶさから助けようとした残雪を、一度は狙うも逆に助け…。椋鳩十の作品を小学校低学年から味わえるようにと絵本化された「えほん・椋鳩十」シリーズの1作目。他に『藤吉じいとイノシシ』（保立葉菜/絵）、『かたあしの母すずめ』（大島妙子/絵）など。

<絵本-小学校高学年から>

『ものがたり白鳥の湖』 ものがたり白鳥の湖編集室/文 ガブリエル・パチエコ/絵 エディション・エフ 2017.12 ¥2000

空をゆく白鳥は、悪魔に呪いをかけられた美しい姫だった。呪いを解くことができるのは、永遠の愛の力だけ。悪魔に翻弄されながらも真実の愛を貫く、王子と姫のドラマティックな恋物語。チャイコフスキー作曲のバレエ作品として有名な「白鳥の湖」の世界を、幻想的な美しい絵で彩った絵本。バレエダンサーによる巻末解説では、バレエの見どころ等を紹介。

<読み物一小学校低学年から>

『イースターのたまごの木』 キャサリン・ミルハウス/作・絵 福本友美子/訳 徳間書店 2018.2 ¥1700

イースターには、ウサギがやってきて綺麗な模様のついた卵を隠すという。皆は競ってこの卵を探し、見つけた数や模様の美しさを自慢していた。ケティ達は、おばあちゃんから、ひととき美しい模様の描き方を教わり、卵に描いて大きな木に飾ることに。この木の美しさは尊になり、遠くから見物人が集った。1951年コールドコット賞受賞の絵本を日本語版では読み物として編集。

<読み物一小学校中学年から>

『ふたりのスケーター』 ノエル・ストレットフィールド/著 中村妙子/訳 教文館 2017.11 ¥1200

優れたスケーターだった両親を氷上の事故で失ったララは、スケート中心の英才教育で友達もいない。一方、貧しいながらも温かい家庭に育ったハリエットは、健康回復のため10歳で初めてスケートを。別世界に育った2人が友情を育み、大人たちに見守られながらそれぞれの夢に向かって歩み始める。第二次世界大戦前の英国を舞台にした友情と家族愛の物語。原書は1951年出版。

<読み物一小学校高学年から>

『お母さんの生まれた国』 茂木ちあき/作 君野可代子/絵 新日本出版社 2017.12 ¥1500

小5の未来は夏休みに、兄や母親、おじさんと共にカンボジアに行くことに。カンボジアは、母親が14歳、おじさんが16歳まで過ごした故郷だった。激しい内戦の中、必死で生き延びた母の姿が、現在の物売りの少女の姿と重なった未来は、母親が越えてきた見えない壁の高さに思いをめぐらせる。40年ほど前のポルポト政権下のカンボジアの厳しい状況が生々しく描かれた作品。

『ぼくらの山の学校』 八東澄子/著 PHP 研究所 2018.1 ¥1400

岡山に住む小4の壮太は、ある出来事から、学校にも家にも自分の居場所がないと感じ、苦しんでいたところ、「山村留学センター」の存在を知り、自らが志願して四国の空高町立山村留学センターへ。センターには、様々な理由で13人の小学生がやってきていた。実在のセンターの取材を元に、寮や学校、大自然での体験を経て、成長していく小学生たちを描いた物語。

<読み物一中学生から>

『邪馬台戦記1 闇の牛王』 東郷隆/作 佐竹美保/絵 静山社 2018.1 ¥1600

3世紀初頭、瀬戸内海に面した村の村長の息子ススヒコは、クナ国との禍の元を断つべく生口(奴隷)となり、幼馴染の少女とともに恐ろしい牛王に立ち向かう。詳細な時代考証に基づいた歴史小説を執筆し、数々の賞を受賞している作家による、日本のルーツと邪馬台国の謎に迫る古代冒険小説。朝鮮半島と日本の神話が交錯する世界で翻弄される、12歳の少年と少女の成長物語の幕開け。

『列車はこの闇をぬけて』 デルク・ラインホルト/作 天沼春樹/訳 徳間書店 2017.12 ¥2100

米国へ出稼ぎに行った母親を追って、故郷グアテマラを出た14歳のミゲルは、16歳のフェルナンドをリーダーに4人の仲間と命がけの旅を決行。5人は貨物列車の屋根に乗り、警察や山賊から逃れ、メキシコを縦断する旅を続けるが…。不法移民として、中南米からアメリカを目指す少年少女の体験談に基づいて書かれた本書は、2016年フリードリヒ・ゲルシュテッカー賞を受賞。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『春夏秋冬・12か月手紙を楽しもう!』 スギヤマカナヨ/[著] 偕成社 2018.3 ¥2400

手紙は、どんな時でも出したい時に出していいもの。春夏秋冬いろんな行事があるから、季節の手紙を出してみよう!各月にぴったりのイラストや切手、市販のカードや、こんなの出せるの!?っていうびっくり手作りカードなどを紹介する。「おもしろい!楽しい!うれしい!手紙」シリーズ第2巻。「ゆうびん・手紙のひみつをたんけん!」「もらってうれしい手紙を手づくりしよう!」の全3巻。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『種子島ロケット打ち上げ』 濱美由紀/作画 小学館 2017.11 ¥1500

かみなりくんと小おにちゃんが、JAXAの職員に案内され、タイムマシーンでロケット開発の歴史をさかのぼったり、ロケット部品製造や結合の様子を見たり。そしてついに、2016年12月9日、「こうのとりのり」6号機をのせた、H-IIBロケット6号機が、種子島宇宙センターから国際宇宙ステーションへ打ち上げに成功。ロケットの組み立てから飛びたつまで、パノラマページジツきのたんけん絵本。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『iPS細胞と人体のふしぎ33』 小野寺佑紀/著 茨木保/監修 講談社 2017.11 ¥1000

「なぜ、子は親に似るの?」「クローン人間が誕生したら!?!」2012年ノーベル生物学・医学賞受賞の山中伸弥博士の研究で、世界中が注目したiPS細胞や、DNA、クローン人間、オートファジーのしくみなど、人体の不思議を33のトピックスで紹介する。日能研と講談社「動く図鑑MOVE」編集部が協力して創刊した日能研クエストシリーズ。

<ノンフィクション一中学生から>

『「対人不安」って何だろう? 友だちづきあいに疲れる心理』 榎本博明/著 筑摩書房 2018.2 ¥780

心理学の専門家が、若者が抱える「対人不安」の心理と、不安を前向きに転換するヒントを解説する。友達づきあいで気疲れしている自分。友達に嫌われるのが怖くて相手に合わせる自分。そうした若者の日常の心理を、「人の目」に強く規定される日本人の心理的特徴と捉え、「閉鎖の文化」を持つ日本人として、誰もが抱える「対人不安」とともに生きる道を示す。ちくまプリマー新書。

<研究書>

『ノンフィクション児童文学の力』 国松俊英/著 文溪堂 2017.12 ¥2000

伝記や動物物語など数多くのノンフィクション作品を著した著者が、ノンフィクション児童文学のもつ力と面白さを論じる。ノンフィクション児童文学のジャンルと開拓的な著作者の解説、1970年代から1990年代までの読んでおきたい作品紹介、自身の著作の誕生物語などを通して、児童文学に関心を持つ人たちにその魅力と可能性を語る。『日本児童文学』他掲載に加筆し書籍化。